



[農業経営部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

1. 「水田の用水・水路・畦畔管理等における基本情報」の記入マニュアルの作成

[要約]

水田を受託する際に受託予定集落の用水・水路・畦畔等の管理方法を容易に把握することができる「水田の用水・水路・畦畔管理等における基本情報」の記入マニュアルを作成した。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 作物・経営研究室

[連絡先] 電話 086-955-0275

[分類] 技術

[背景・ねらい]

水田を維持していくには、水田内の管理に加え、用水・水路・畦畔等を管理する必要がある。これらの管理方法は各集落や水利組合において口頭で継承されてきており、書面で記録されている事例はほとんどみられない。そのため、各集落でこれらを管理する具体的な方法をいかに継承していくかが大きな課題となっている。そこで、水田の用水・水路・畦畔管理等の方法を具体的に記録するためのマニュアルを作成する。

[成果の内容・特徴]

1. 「水田の用水・水路・畦畔管理等における基本情報」の記入マニュアルは、①用水・水路・畦畔管理等の基本情報の記入様式と記入例、②共同作業（水路・畦畔・農道管理及び鳥獣害対応）の基本情報の記入様式と記入例、③集落内の水門、分木、入・落水口等の位置や用水の流れ等の記入例、④圃場の管理（用水・畦畔等）に関わる詳細な手順の記入例で構成する。
2. ①用水・水路・畦畔管理等、②共同作業（水路・畦畔・農道管理及び鳥獣害対応）の基本情報は記入例と対比しながら作成できる。
3. ③集落内の水門、分木、入・落水口等の位置、用水の流れ等や④圃場毎の管理（用水・畦畔等）は、記入例を参考に作成できる。

[成果の活用面・留意点]

1. 作成した内容について、集落内で情報を共有するとともに、工程を客観的に把握することが可能になる。また、状況の変化に伴い、新たな情報に随時変更できる。
2. 集落内の水門、分木、入・落水口等の位置、用水の流れ等を記入する地図は、Google マップ等からコピーして利用する。
3. 本マニュアルと記入様式（エクセル形式）は各農業普及指導センターに配付する。



[具体的データ]



I 用水・水路・畦畔管理等の基本情報（記入例）	
項目	内容
●用水管理の確認事項	作成年月日：（西暦） 2020年 5月 31日
・組織名、代表者、連絡先	組織名：〇〇地区水利組合 代表者：△△△ TEL：086-000-4567
・水源の名称（河川、池等） （写真添付）	■川 口池 口その他（ 名称：〇〇用水
	5月10日（苗代時期）～9月末
	管径
	入水：暗渠の栓を確認し、入水口から取水。落水：暗渠の栓を外し、落水口から落水。ポンプアップは不可。
	位置及び状態の確認
	位置及び状態の確認
	位置及び状態の確認
	位置及び状態の確認（暗渠の栓を含む）
	1～1.5m/日
	位置確認
	〇〇池 〇〇池から△△用水に水を落とし、各圃場に水を回す。
	地権者、〇〇円/10a
	用水管理は受託可能 圃場の落水条件等
●確認事項	地区役員（水利責任者含む） TEL：086-000-4567 5月10日～10月 随時 位置及び状態の確認 写真にあるように●の赤矢印に分木板をさし、水の流れを止めて水位を上げ、▲圃場方向へ用水を流す。■に分木板をさして水位を上げ、入水口から▲圃場に入水を行う。入水後は圃場側の入・落水口を土農等でふさぐ。
	水路管理は受託可能 大雨の前には入水口、分木等を確認する。

IV C2圃場の管理（用水・畦畔管理等）に関わる詳細な手順1（記入例）	
項目	内容
●用水管理の確認事項	
・入水口(写真添付):	写真②の確認
・落水口(写真添付):	写真②、③、④の確認
・暗渠(写真添付):	写真⑤、⑥、⑦、⑧、⑨の確認(暗渠の栓を含む)
・その他:	写真⑩から農機具の搬入や退出とする。
●樋門・分木等の管理の確認事項	
・樋門・分木等の管理:	地区役員(水利責任者含む)
・担当:	
・時期:	6月上旬～
・回数:	随時
・場所(写真添付):	写真の①～④
・方法(写真添付):	①の赤矢印に分木板を設置し、C2圃場への用水の流れをつくり、流量を増やす。②に分木板を設置して水位を上げ、②の入水口からC2圃場に入水を行う。入水後は②、③、④の圃場側の入・落水口を分木板、土農等でふさぐとともに、⑤～⑨の暗渠の栓を行う。
●畦畔管理の確認事項	
・時期:	4月～10月
・方法(写真添付):	刈払い機による畦畔除草を概ね毎月実施。刈高の目安は2～3cmで写真⑥～⑧を参照。
・その他:	C2圃場の農機具の搬入・退出口は⑩である。



[その他]

研究課題名：中山間地域農業の発展にむけた広域連携の展開方向
 予算区分・研究期間：県単・平 29～令元年度
 研究担当者：河田員宏、井上智博